戦略的な援助をどう実現するか
――ベトナムにおける日本の取り組み――

北野充[1]

● 「新しい日本の ODA」を目指した提言書。特に、「日本の国益を反映した戦略的な援助をどのように実現していくか」という問題意識を中心にすえ、日本の対ベトナム経済協力を題材にしつつ、具体的な方法論を考察・提示している。

● ベトナムにおける日本の取り組みとして８つの事例を紹介：　①対ベトナム国別援助計画の策定、②援助の規模の検討メカニズム導入と「制度・政策環境」、③政策協議の活性化、④投資環境整備のための「日越共同イニシアティブ」、⑤貧困削減戦略への取り組み、⑥政策ローンの供与、⑦援助協調、⑧援助効果向上。

● 主な論点、考察と提言

・ ***何のための ODA か***　⇒国家戦略としての ODA。国益を①相手国との二国間関係で得られるもの、②相手国の開発に日本が貢献することがもつ意味、の２面でとらえる。

・ ***どのようにして ODA に対する国民の理解を得るか***　⇒ある国に対する ODA がどのような政治的・外交的な意義をもつかをシンプルなメッセージで伝える。市民社会、NGO、地方自治体、企業との接点を広げる ODA を行っていくことも必要。

・ ***国別予算の配分を決定するプロセスをどのように改善するのか***　⇒二段階の作業が必要、すなわち、①国ごとに ODA を通じて何を実現しようとするかを明確化し、供与する ODA の規模を検討すること、②ODA の全体量をふまえたうえで、国別の供与規模のバランスを考えること。

・ ***国別アプローチをどのように強化していくか***　⇒「国別援助計画」、「セクター援助戦略」、「プロジェクト」の三層構造を意識したベトナムでの取り組みは有用。

・ ***途上国の現場に軸足をおいた援助をどのように実現するか***　⇒ベトナムでは現地 ODA タスクフォースが重要な役割を果たした。ただし、有効に機能させるためには「制度」と「人」の要素が鍵。新 JICA 誕生を、同タスクフォースのあり方を考えるさらなる契機に。

・ ***三つのスキームの一体的活用をどのように実現するのか***　⇒ベトナムでは国別援助計画のもとでセクター援助戦略マトリックスを導入し、各種スキームを一体的に活用（大使館、JICA、JBIC、JETRO の四者間でビジョン共有）。新 JICA への期待。

・ ***「政策」と「実施」との役割分担をどのようにすべきか***　⇒役割分担する大前提として、日本側関係機関の間の「ビジョン共有」が重要。

・ ***日本として、世界に何を訴えるべきか***　⇒現場・東京・国際的な援助コミュニティーの中心地の三つを結ぶネットワーク構築が必要。

・ ***「新しい日本の ODA」を目指した、分野横断的な課題***
  - ➢ プロジェクト以外の「政策課題への対応」も重視していく。
  - ➢ 日本の開発哲学をバックボーンにして開発モデルの内容を深め、現実への適用に真剣に取り組んでいく。
  - ➢ 被援助国側の声をよく聴く。
  - ➢ 明確なビジョンのもとで成果を評価し、結果を計画にフィードバックしていく。

（以上）

---

[1] 筆者は 2002 年９月から 2005 年４月まで在ベトナム日本大使館勤務（公使）、現地 ODA タスクフォースで中核的な役割を果たす。本要約は、北野充氏の著書（GRIPS 開発フォーラム、2006 年 12 月）を GRIPS 開発フォーラムの文責で作成したもの。